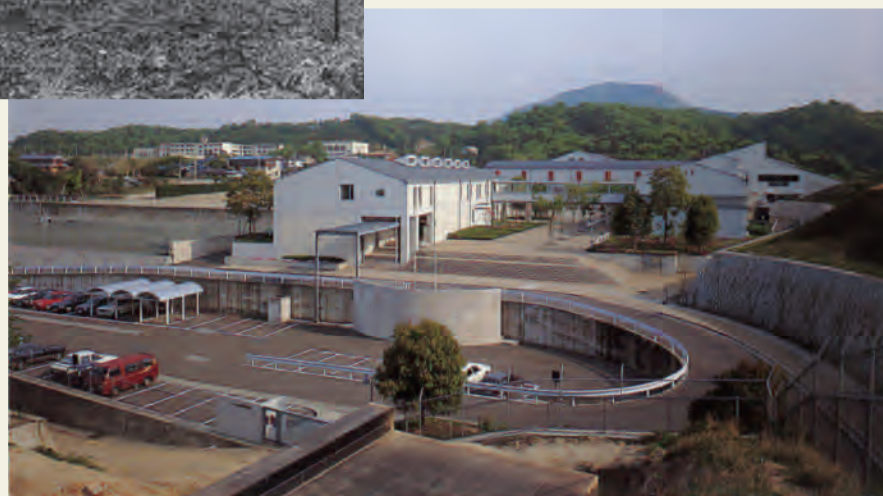




私たちの歴史 SHOIN点描



学園の将来を見越し、緑に恵まれた 関屋の地にキャンパスを造成

90年を超える樟蔭学園の長い歴史の中で、関屋校地を開発し、短期大学を開学したことは大きな出来事の一つです。

昭和30年代末から40年代にかけて、校舎の近代化はもとより施設設備の充実・近代化が急ピッチで進められました。高度経済成長の波が学園の周辺環境に変化をもたらすとともに学生数も増加。小阪キャンパスだけでは手狭になりつつありました。

そこで学園の将来を見越し、昭和48(1973)年5月、近鉄大阪線関屋駅の南側、駅から徒歩3分の交通至便で緑豊かな奈良県北葛城郡香芝町(現香芝市)に、46,000㎡余りの土地を購入。しかし、国定公園地域、住宅造成規制地域、市街化調整地域など、いくつもの規制にしばられた地域で、開発への道のりは予想以上に長く、苦労の連続でした。奈良県や香芝町の担当者との数十回に及ぶ折衝や地元住民との交渉を重ねて開発許可を受け、さらには短期大学設置に向けた文部省の各部門担当者との数年にわたる協議の末、昭和61(1986)年12月、樟蔭女子短期大学設立の正式認可が下りました。翌62年4月10日、第1回入学式を挙行。用地取得から14年の歳月が流れていました。

1987 樟蔭女子短期大学開学

くすのき



樟蔭学園報 Vol.161

大阪樟蔭女子大学／大学院・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園



芝生化が進む幼稚園園庭に水やりをする園児たち(詳細はP10参照)

はばたけ、知性。



ホームカミングデー 11月7日 開催……………11

レポート●[児童期における英語教育の在り方と今後]菅正隆…………… 1

SHOIN LABO●[消費者行動に関する研究]永野光朗…………… 3

こもれびの窓●書の教室アトリエCOMODO主宰斎藤律子…………… 5

CLUB NAVI●中学校美術部…………… 7

はぐくむ心●高等学校副校長渥美良一…………… 7

NEWS●教職員と学生等の活動報告…………… 8

INFORMATION●参加イベントのお知らせ……………11

we are Now●各校行事など……………13

平成20年度決算概要報告……………17

SHOIN点描●1987年樟蔭女子短期大学開学……………19



菅正隆

昭和33年、岩手県北上市生まれ。大阪外国語大学卒業。大阪府立高等学校教諭を10数年務めた後、大阪府教育委員会指導主事、大阪府教育センター主任指導主事を経て、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官を務める。平成20年3月に出生した新しい学習指導要領における「外国語活動」の必修化に中心的な役割を果たし、教材となる「英語ノート」の作成にも中心として活躍した。著書に、「小学校英語わいわいガヤガヤ玉手箱」(開隆堂出版)など多数。平成21年4月より本学児童学部教授に就任。6月に設置した「児童小学校英語教育センター」ではセンター長に就任予定。

「人とコミュニケーションをとりたい」という気持ちがあれば、言葉の面白さや大切さに気づき、興味も生まれます。

今回のレポートは、平成23年から小学校で外国語活動(英語活動)が必修化されるのに伴い、その導入に中心的な役割を果たした本学児童学部の菅正隆教授(前文部科学省初等中等教育局教科調査官)による講演を紹介します。小学校での英語活動の狙いとこれからの英語教育の在り方などについてお話しいただきましたので、ここでその一部を紹介します。

日本の英語教育ではなぜ話せないのか？

日本での英語教育は「読む」「書く」に重点が置かれています。その結果、「聞けない」「話せない」英語教育だと揶揄されたりもしますが、どうしてそうなったのでしょうか。

江戸時代、日本は鎖国をしていましたが、長崎の出島を通してオランダからは色々な品物や文献が入ってきたことで「蘭学」という学問が始まりました。オランダ語での文献を正しく日本語に訳し、日本語を正しくオランダ語に訳すということが蘭学における外国語教育だったのです。現在でも、日本の英語教育は、このスタイルを踏襲しています。

これにより、江戸時代から現在まで、訳読中心主義、文法中心主義の語学教育が行われてきました。したがって、私たちは「読める」「書ける」けれども「話す」「聞く」ことがあまりできないのです。これは、鎖国により、日本人は外国人と接触する機会がなく、外国からの情報は文献に頼るしかなかったからです。実際に外国人と触れ合う機会があった国々では、「読む」「書く」よりも以前に、「聞く」「話す」ことのほうが重要視されたのです。そういった点からも、日本の訳読教育、文法教育は世界でもユニークなシステムだと言えるでしょう。



ついに導入された小学校「外国語活動」

新しい学習指導要領により、初めて日本の小学校に「外国語活動」が正式に導入されることになりました。今年から2年間(平成21、22年度)は移行期間ですが、平成23年には全国の小学校で必修化され、小学校5・6年生でそれぞれ週1回、2年間で計70時間の授業が行われます。

小学校の先生方からは「導入までの2年間で何をすれば良いのですか?」とよく聞かれます。私は、「この2年間は先生方の指導力を向上させることが大切です」と答えています。ただし、それは先生方の英語力のことではなく、子どもたちのコミュニケーション能力の素地を育てる指導力のことを意味しています。

小学校の「外国語活動」で育成されるコミュニケーション能力の素地には3つの柱があります。外国語を通じて言語や文化について体験的に理解を深めることが一つ。二つ目には、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ること。三つ目には、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることです。

コミュニケーションの力は「生きる力」

3つの柱の中でも、最も大切なのは、コミュニケーションを図ろうとする「心」を育成することです。人とコミュニケーションをとりたいと思っている人は、自分が伝えたいことを「どのように表現したらよいのだろうか?」と一生懸命に考えます。しかし、人とコミュニケーションをとる意欲がない人にいくら単語や表現を教えても、言葉を定着させることはできません。そういった意味からも、小学校段階では「心」そして「意欲」の部分を育ててほしいのです。

小学校の先生方の中には、自分の英語や発音に自信のない人もいます。しかし、先生方が英語を話すのを恥ずかしがっていたら、子どもたちも同じようになっていきます。発音が下手であっても、堂々とコミュニケーションをとる姿を見せることは、子どもたちの自信にもつながります。子どもたちが自ら積極的に人とコミュニケーションをとるようになれば、どこへ行っても自分で問題を解決できる力が身につくことになるでしょう。このような「生きる力」が備わっていれば、怖いものはありません。



デジタル機器の活用で授業が変わる

「外国語活動」の導入に伴って、文部科学省では「英語ノート」という教材を作成し、小学校の5年生6年生に配布しました。また指導用のCD-ROMソフトも作られ、このソフトも全ての小学校にすでに導入されています。そして、これらのソフトや電子黒板などの最新のデジタル機器を活用すれば、これまでにない効果的な授業を行うことができます。しかし、機器に頼り切ってしまうと、先生方は機器のボタンを押すだけの人になってしまいます。コミュニケーション能力を養うことが目的の授業ですので、機器を使った一方的な授業では問題があります。ソフトに組み込まれた会話をうまく活用して、先生と機器が会話しているように見せたり、時には児童に質問を投げかけたりといったように、先生方の指導力を向上させることによって、子どもたちの興味を惹きつける効果的な授業を行うことができます。

一貫した英語教育の時代へ

私は、小学校に英語が導入されたことで、すぐに子どもたちが英語を話せるようになるとは考えていません。「言葉」の面白さや大切さを感じて、「言葉」に興味を持つことが重要だと考えています。子どもは長い時間かけて言葉を覚えていくのです。小学校の段階では何が必要で、何をしなければならないかを考えることがポイントだと思っています。

小学校で英語活動が導入されたことを踏まえて、これからは幼稚園を含めた幼・小・中・高・大で一貫した英語教育の構築が必要になってくることでしょう。樟蔭学園においても4月に「英語教育センター」を開設し、学園内の各校での英語教育の一貫性についての検討を始めました。

また、6月には関屋キャンパスに「児童・小学校英語教育センター」を設置し、各教育委員会や小学校でのカリキュラム作成支援のほか、英語教育に関する様々な情報を発信していきたいと考えています。そして、このような活動が地域や学校へのサポートにつながり、より良い英語教育の環境が整うことを期待しています。

(この文章は、講演内容の一部を企画広報室がまとめたものです)

これからの予定

KOSAKA	インテリアデザイン学科 公開講座 「ランドスケープの原点―英国の価値観の源の体験から―」 日 時：10月24日(土)13:00～16:10 講 師：二見 恵美子氏(環境デザインE.M.I. PROJECT代表) 受講料：無料／お申し込み：必要
	地域文化センター・日本文化史学科・国文学科 文楽ワークショップ 「文楽を楽しく学ぶ」 日 時：11月28日(土)10:30～12:00 講 師：竹本 相子師〔太夫〕、竹澤 宗助師、竹澤 団吾師、吉田 玉佳師、桐竹 紋秀師、吉田 和希師(NPO法人人形浄瑠璃文楽座) 吉田 和生師(NPO法人人形浄瑠璃文楽座：本学 非常勤講師) 受講料：無料／お申し込み：必要
	地域文化センター・日本文化史学科・国文学科 公開講座 「謎の寺院・平城京璉城寺(紀寺)を考えるⅡ」(中世編) 「璉城寺の標形阿弥陀如来像とその周辺」(講演) 講師：奥 健夫氏(文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官) 「大阪樟蔭女子大学璉城寺調査中間報告」 講師：本学研究者 2名 日 時：12月5日(土)14:00～16:00(13:30開場) 受講料：無料／お申し込み：必要 ＜講演会後の12月12日(土)14:00～16:00には、璉城寺阿弥陀如来像の特別拝観を行います。(300円。講演会来場者のみ拝観可)＞
	上記各講座は小阪キャンパス内にて開催いたします。 各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。 〒577-8550 東大阪市菱屋西4-2-26 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(小阪キャンパス) TEL:06-6723-8237 FAX:06-6723-8348 E-Mail:gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp
SEKIA	平成21年度大阪樟蔭女子大学「関屋キャンパスオープンカレッジ」 日時及び講師：(各回14:00～15:30の開催) 10月17日(土)「学力作りと家庭づくり」 講師：小河 勝氏(大阪府教育委員会委員・本学 非常勤講師・樟蔭中高教育アドバイザー) 10月31日(土)「消費と広告の心理学 ―企業戦略から消費者のこころを理解する―」 講師：永野 光朗氏(本学 心理学部教授) 受講料：無料／お申し込み：必要 後援：香芝市教育委員会
	公開講演会 「学校と保護者のいい関係づくり～イチャモンから結びあいへ」 日 時：12月5日(土)14:00～15:30 講 師：小野田 正利氏(大阪大学教授) 受講料：無料／お申し込み：必要 後援：香芝市教育委員会
	教養教育主催コンサート 「日比浩一コンサート」 日 時：1月23日(土)14:00～15:30 講 師：日比 浩一氏(バイオリン奏者) 受講料：無料／お申し込み：必要 お問い合わせ：教養教育・短期大学部研究事務室 TEL:0745-71-3156
	上記各講座は関屋キャンパス内にて開催いたします。 各講座に参加を希望される方は、大学ホームページまたはハガキ・FAX・メールにて、①住所②氏名(ふりがな)③電話番号④参加希望講座名を明記の上、お申し込みください。 キッズルーム：有り(無料：要申込)〔申込締切：各講座実施日の週の水曜日まで〕 〒639-0298 奈良県香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学 学術振興課(関屋キャンパス) TEL:0745-71-3168 FAX:0745-71-3141 E-Mail:s-gakujyutsu@osaka-shoin.ac.jp

上記の講座はHPからもお申し込みいただけます。<http://www.osaka-shoin.ac.jp>

永野光朗



【ながのみつろう】
大阪樟蔭女子大学 心理学部 ビジネス心理学科 教授・学科長(大学院人間科学研究科人間栄養学専攻教授を併任)
同志社大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程修了。
日本社会心理学会理事(編集委員)などを経て、現在は産業・組織心理学会理事(編集委員)、
日本消費者行動研究学会エリアエディター、日本心理学会評議員を務める。
『被服行動の社会心理学』(北大路書房)、『消費者理解のための心理学』(福村出版)、『現代社会の産業心理学』(福村出版)、
『よくわかる産業・組織心理学』(北大路書房)、『産業・組織心理学への招待』(有斐閣)など著書多数。

消費者の行動を理解することは、私たち消費者にとっても重要です

関屋キャンパスの心理学部には、臨床心理学科、発達教育心理学科、ビジネス心理学科の3学科が設置されており、幅広く総合的に心理学を学ぶことができます。なかでもユニークなのが、働く人や消費者の心理に焦点をあてたビジネス心理学科です。今回は同学科の学科長で、主に消費者行動の研究をしている永野光朗先生に、お話を聞きました。

人間の心と行動の仕組みを客観的に理解する

コンビニエンスストアやスーパーマーケットの棚に商品を並べるとき、とくに売りたい商品を、棚の左側・中央・右側のどこに陳列するのが、いちばん効果的でしょうか？

答えは右側で「右側のものが比較的売れる」ことは心理学の実験で、実証されています。考えられる理由はいくつかあります。そのひとつは、人がものを探すときには、視線を左から右へと移すことが多く、視線が流れてしまう左と中央の商品は見落とされやすく、最後に視線が止まる右側の商品が選ばれる確率が高いから、というものです。また、人口比で多い右利きの人が取りやすいから、というのも理由のひとつとして考えられています。

これは、ビジネス心理学の消費者行動研究のほんの一例です。心理学というと、カウンセリングに代表される臨床心理学を思い浮かべることが多いと思います。しかし、そもそも心理学は「人間の心と行動の仕組みを客観的に理解する」ことを目指す学問であり、その研究成果は臨床だけでなく、社会のさまざまな分野で応用され、人々の社会生活をより快適にするために役立っています。本学の心理学部には、「臨床心理学科」と「発達教育心理学科」、そして「ビジネス心理学科」の3つの学科があり、あらゆることが学べる“総合心理学部”としての性格を持っています。3学科間の垣根は低く、どの学科に属していても他学科の科目をほぼ自由に履修し単位を修得することができます。たとえば産業カウンセラーを目指す人は、臨床心理学とビジネス心理学の両方の知識を身に付けることができますし、スクールカウンセラー志望なら、臨床心理学と発達教育心



理学の科目から、必用なものを履修できます。このように同時に幅広く学べるのが、樟蔭の心理学部の大きな特徴です。

さて、ビジネス心理学は、学問的には産業心理学という分野に対応しています。その産業心理学は、大別して「組織心理学」と「消費者心理学」のふたつの分野があります。「組織心理学」は、従業員の意欲向上や産業カウンセリング、人事評価など、組織の運営の課題を取り扱う分野。言い換えれば企業・組織の「内側の人」に対しての学問です。なお、ここでいう組織は企業だけでなく、地方自治体や、教育機関、福祉機関さらにはNPOなど、人が働くさまざまな組織を指します。もうひとつの「消費者心理学」は、企業が製品やサービスをつくる时候にも、また広告や店頭販売するときにも、極めて重要な要素となる消費者・利用者の心理と行動を研究し、どうアピールするのが効果的であるかという課

題を取り扱います。つまり「外側の人」であるお客の心理を研究するものです。

人はなぜスーパーに行くと思わず買ってしまうのか

私の専門は消費者行動論です。社会心理学をベースにしながら、消費者行動の理解を深めるというかたちで研究を進めるため、「応用社会心理学」という言い方もできます。これまで、流通関係のシンクタンクの依頼で消費者の意思決定過程の研究を行ったり、電力会社の依頼で原子力発電所のテレビ広告の効果測定や分析など、いろいろなことをしています。これらのデータは、流通の現場で活用されたり、CM制作の参考に用いられたりしています。

消費者行動を理解することは、販売戦略やマーケティング戦略、製品開発など企業活動の中核をなす分野で、お客のニーズを知

るためにも必要不可欠であり、ますます大きな注目を集めています。たとえば、スーパーへ買い物に行った帰りに、スーパーの袋いっぱい詰められた商品を見て、「こんなに買うつもりではなかったのに」と思った経験は、誰にもあるはず。人間の行動は、本人は理路整然としているつもりでも、実はその場そのときの環境に大きく左右されているのです。

逆からいうと、売る側は「思わず買ってしまう」状況を作ることが、売り上げ増のポイントになります。そのために「数量限定」で希少価値をアピールしたり、「タイムサービス」で今だけのお得感を訴えたりします。これらは人の心理的な弱点を突く方法で、実際になかなかの効果があります。

大型スーパーマーケットで、数日間消費者の動きを観察し、買い物途中の人にアンケートを実施したことがあります。

買い物には、お店に行く前から何を買うか決めている「計画購買」と、その場で購入を決定する「非計画購買」があります。商品を買った物カゴに入れたお客に、「それは買うことに決めていたのですか？」と聞くと、なんと7割近くが「お店に来てから決めました」と答えます。つまり、非計画購買なのです。たとえば「2割引」表示があるティーバッグを見て「そ

ういえば残り少なくなっていた」と思っカゴに入れたお客もいれば、大量に並べられたおいしそうなブドウを見て「今日のデザートにいいかも」と思っカゴに入るお客もいます。「割引」や「大量陳列」をすることで、買う気のなかったお客の消費者心理をくすぐって、「安いかも」、「おいしそう」という気にさせ、売り上げアップにつなげることに成功しているのです。その他にも、心地よいBGMを流すことで歩く速度をコントロールしたり、印象的なPOP(店頭で置かれる商品広告)を付けたりすることも、非計画購買を引き起こす環境作りの方法です。

消費者行動の理解は、企業(売る側)だけでなく、消費者自身にとってもたいへん重要なことです。マルチ商法など、これまでさまざまな悪徳商法が現れましたが、どれも消費者の心理的な弱点をたくみに突くものです。仕掛ける側は、消費者心理の操作に熟知しているのですから、そんな不当な企業活動から自らを守るためには、消費者自身がその行動特性や心理メカニズムを学び理解することも必要なのです。

つまりビジネス心理学を学ぶことは、将来の仕事に役立てるためだけでなく、社会の仕組みを知り、賢い生活者になるためにも大いに役に立ちます。



人を理解し、社会を知り、よりよい生き方を身に付ける

私が大学で心理学を学んだ頃は、文学部哲学科のなかの心理学専修というふうに、極めてマイナーな分野でした。それでも「人間の行動の本質」を探求したくて心理学を選び、大学時代はフィールドワークでデータを集め、研究室でそのデータを分析する日々を送りました。

大学院生の頃に、文科省が行っている「日本人の国民性調査」の調査員をしたことがあります。ランダムに選ばれた20人の家を訪ねて、聞き取り調査をするのです。不在の人の帰宅を深夜まで待ったり、犬に吠えられたり、果ては「警察を呼ぶぞ」と怒られたり、悲惨な目に合いながらも、フィールドワークの大切さと面白さを学びました。

現在、東大阪市との連携により、学生たちと石切参道商店街での来街者調査を行っています。学生たちにも、これらのフィールドワークを通して、いろいろなものを得てほしいと思いますし、心理学的なアプローチから地域に貢献できることを実感してほしいと考えています。

社会を理解するには、それを構成する「人間」を理解することが必要です。人間を客観的に知ることで、仕事に深みを与えることも、偏見や差別、紛争などの問題を解決することもできるのです。私は人が人として最善の生き方を伝授してくれる「究極の教養」が心理学であると考えています。





斎藤律子

さいとう りつこ
「アトリエCOMODO」主宰

大阪市出身
1984年3月大阪樟蔭女子大学 国文学科卒業

4歳上の姉が樟蔭中学校に入学した後、
とっても楽しそうにしているのを見て
期待に胸を膨らませて樟蔭の門をくぐる。
中学の国語の時間に万葉集に出会い、
大学では国文学科に進み、和歌を学ぶ。
同時に、阪本大雅先生に弟子入りし、
書道を本格的に学び始める。
23歳で「神融会展」大賞を受賞。
結婚後も書道に打ち込み、
書家の登龍門である日本書芸院展に2年連続入選。
大学時代に取得した中学校国語の教員免許に加え、
スクーリングで高校で書道を教える資格を取り、
一時は、樟蔭中学、高校で非常勤講師を務める。
教え子には松嶋尚美さん(オセロ)もいた。
3人の息子の子育てに追われて一旦は筆を置くものの、
頼まれて久しぶりに筆を取ったとき、
「真っ白の紙に筆を下ろした瞬間に
手が勝手に楽しげに動き出しました。
まるで憑き物が降りたみたいで体が軽くなり、
たまっていた子育てのストレスが消えていきました」
そんな経験もあって、
家事と育児で忙しいお母さんのために
書道教室「アトリエCOMODO」を主宰。
COMODOは音楽用語で
「気楽にのんびり。ほんの少しゆっくりと…」を意味する。

子どもの幼稚園のママ友達に勧められて ママたちが楽しむ書道教室を開いて10年目

書道を始めたのは数え6歳の6月6日。樟蔭中学校入学後は、大学卒業まで軟式テニス部で活躍しながら、書道を続けていた斎藤律子さん。結婚後も、嫁ぎ先の祖母から「お嬢さん稽古で終わらせてはあかん」と励まされて、母校の中学、高校で講師を務めたこともあります。現在は主婦のための書道教室「アトリエCOMODO」を自宅で開催しています。

育児や家事で忙しい お母さんのための書道教室

斎藤(旧姓小川)律子さんが、自宅で書道教室「アトリエCOMODO」を始め、今年で10年目。発端は子どもの幼稚園時代のママ友達から「習字の手習い兼息抜きとおしゃべりの場がほしい」と頼まれたことでした。「私自身3人の息子を育てている真っ最中でしたから、忙しさのなかにも気分転換の場を持ちたい気持ちは一緒でした。最初は『忙しいから、まだまだ無理』と言っていたのですが、気の置けないママ友達に押し切られて、仲間内の書道教室として始めました」教室といっても、級や段の取得は一切目指さずに、育児や家事に忙しいお母さんたちが、楽しみながら実用的な書を身に付けられる気軽な教室です。パソコン時代とはいえ、祝儀不祝儀袋に名前を書くとき、結婚式や展覧会などの芳名帳への署名など、もう少しきれいな字が書けたらと、思うことはよくあります。また、年賀状や絵手紙を自分の手で書くより心が伝わります。「大切にしているのは、この時間が心の癒しになること。私が経験した書の心を皆さんに少しでも伝えられたらと思っています」斎藤さんが習字を始めたのは、数え年6歳の6月6日。昔からの言い伝えで、習い事を始めると上達するといわれている日です。「数えの6歳ですから、まだ幼稚園児です。



母もお茶、お花、琴など娘時代から習い事をしていた人で、親戚の人から「字は一生ついて回るもんやから、ちゃんと習わせたほうがいい」と勧められたこともあって、習字教室に通わせたそうです。他にもそろばんとピアノを習い始めました。そろばんは続きませんでした。習字はどんどん級が上がるのがうれしくて、樟蔭中学校の受験勉強を始めるまで続けていました」

大学卒業まで 軟式テニス部で活躍

4歳上の姉が樟蔭に通っていたので、斎藤さんもごく自然に樟蔭に進みました。「父は、娘は樟蔭に通わせると決めていたようです。というのも、父の出身高校の先輩にあたる織田作之助の小説に、大軌(大阪電気軌道:現在の近鉄電車)で通学するS女学校の女生徒が出てくるらしいのですが、このS女学校は樟蔭がモチーフであり、それにあこがれていた父は、娘を樟蔭に入れたかったらしいのです。父の勝手な思いがきっかけでしたが、担任の中松先生は生徒を我が子と思って育ててくださる方で、樟蔭ではのびのびと楽しい日々を過ごすことができました」クラブ活動は軟式テニス部。背が高いのでダブルスの前衛で、2年からレギュラーで府大会に出場し、団体で2位になるなどの活躍が始まりました。一方で、習字はお休みしていましたがピアノは続けていて、学内のコーラスコンテストの伴奏を務めていました。「ピアノも大好きで、テニスを続けるか、ピアノに力を入れるかの選択を迫られたのですが、テニス部顧問の内橋先生の『やめません』の一言が効いて、テニスにのめりこむことになりました」当時の樟蔭高校軟式テニス部は、インターハイに連続10年以上出場している名門。先輩は大学のコートから目を光らせているし、勝たなくてはという重圧がかかり悩んだ時期もありました。しかし顧問の先生方のアドバイスもあり、インターハイ出場権を見事に勝ち取った時は本当にうれしかったそうです。ただ、残念なことに、体調の問題で、インターハイへの出場権



は後輩に譲らなくてはなりませんでした。「とっても残念でしたが、当時の山本校長はくやし涙を流してくださり、担任の渥美先生には、けんめいに心のケアをしていただいたことで、人は一人で生きられないと身をもって知りました。また、このときにコートの外から冷静に試合を見たことで、あらためてテニスの複雑さと面白さを知りました。これをバネに大学でもテニスを続け、全日本インカレでは5位、関西選抜選手にも3年間選出されました」

あせらずゆっくり 自分の書の世界を広げたい

大学で選んだ学部は国文学科でした。「中学の国語の時間に、山口和夫先生が教えてくれた万葉集がきっかけです。少ない言葉で素直に心を表現する形式に心ひかれ、大学でも和歌を勉強することにしました。北村英子先生のゼミで初めて絵かるた作りをしたのも私の学年。私は万葉かるたを作り、お嫁入り道具の一つとして今も持っています」卒業論文のテーマは「崇徳院の和歌」。崇徳院は5歳で天皇になるものの、父の鳥羽上皇に疎んじられて退位、後に讃岐に流罪になって非業の死を遂げた歌人です。「卒論のテーマ決めのとき、ゼミの安田純生先生が『崇徳院は鬼になった』と言われたのが気になって、研究することになりました。百人一首に収められている“瀬を早み 岩にせかるる 滝川の われても末に あはむとぞ思ふ”の歌が有名ですが、他にもたくさんの歌があり、調べているうちに私の好きな万葉集の影響を色濃く受けていることがわかりました。安田先生は、私の万葉集好きを考え、たうえて、それとなく崇徳院のテーマを奨め

てくれたのだと思います。樟蔭の先生方には、そんな細やかな優しさがあります」この卒論も美しい布で装丁され、お嫁入り道具のひとつとなりました。

書道は、中学入学後、市中の教室には行かなかったものの、中学の授業や、高校の芸術授業の選択科目で続けていました。「高校では、古代文字や隷書を書いたり篆刻(てんこく:石や木などの印材に字を刻すること)をしたり、書道の奥深さにふれました。また近代詩文の授業で、中島みゆきの『時代』や山口百恵の『コスモス』の歌詞を隷書体で書いたりしたのも、書道を身近に感じられる面白い経験でした」そして、大学入学後、高校で教えてくれた阪本大雅先生に弟子入りもしました。テニスは大学まで決めていたので、一生続けられるものが欲しかったのです。卒業後は、スポーツ用品メーカーに就職。お見合いをして結婚退職が決まった後に、書道の「神融会展」で大賞を受賞しました。「またひとつお嫁入り道具ができたぐらいの気持ちでした。しかし、嫁ぎ先の祖母がかつて絵を志したことがあった人で、「お嬢さん稽古で終わらせたらあかん」と言ってくれて、書道を続けることになりました。この一言があったから、樟蔭の中学と高校でも非常勤講師として教えることにチャレンジしたり、自宅でCOMODOを運営したり、今に至る書道の道が開けたのです」COMODOの教室には、スタート時のメンバーに加え、その後口コミで参加してくださった人たちも増えて、現在は月1回ずつ6クラスで教えています。各クラス7、8人の少人数で、お稽古の後はおしゃべりの花が咲きます。「お稽古帰りに、皆が笑顔で『楽しかった』と言ってくれます。10年続けてきて、いちばん癒されているのは私だな、と思います」書道教室を続けながら、「子育ての責任を終えた後は、再度学問として書を見つめ、いつか自分の書というものを表現できるようになりたい」という斎藤さん。あせらずゆっくり、自分の世界を広げています。

卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

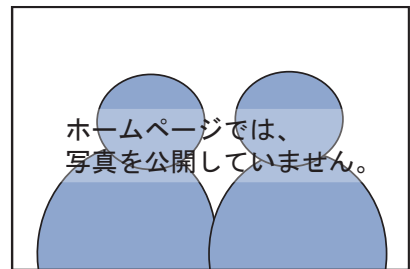
さまざまな分野でご活躍されている卒業生の情報をお寄せいただき、みなさまのお力をお借りして、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。身近でご活躍の卒業生の様子をぜひとも樟蔭学園法人本部企画広報室までお知らせくださいますよう、お願いいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263

CLUB NAVI

4 中学校

美術部

今回は、中学校美術部を代表して、部長の●●●●さん(3年楓)、副部長の▲▲▲▲さん(3年楓)にインタビューしました。



左より部長の●●●●さん、副部長の▲▲▲▲さん

中学校美術部は、部員合計14名。先輩と後輩の仲が良く、それぞれに自分の絵を描きながら、いろんなおしゃべりも楽しんでいるそうです。大阪私学美術展では毎年入選者を出し、文化祭ではオリジナリティー溢れる力作を展示しています。

Q 絵を描いていて、楽しいところはどんなところ？
A ●●●●さん(以下、●●●●)「自分のイメージ通

りに仕上げていくのがとっても楽しいです。でも意外と、思っていた仕上がりと違ってしまったところが、いい出来になったりもする。そういうのもとても面白いです。」

▲▲▲▲さん(以下、▲▲▲▲)「絵って近くで描いていると粗さばかりが目立って見えるのですが、離れて見てみてはじめて、きれいだなって思える。客観的になって自分の絵を見る瞬間が、視界が広がるのを感じて面白いですね。なので、作品を客観的に見える周囲の人から『ここ、こうした方がいいよ』っていうアドバイスは、出来るだけ素直に聞くようにしています。自分では近すぎて分からないことが多いから。」

Q 絵を描く時に、自分なりに何かこだわりは？
A ●●●●「いつもちょっと、人と違う色使いをしたい！という気持ちがあります。一つの絵に出来るだけたくさんの色を使って、『お花』に『灰色』とか、こんな色は普通使わないだろうと思われる色を使って、私らしさを出していきたいです。」

▲▲▲▲「私は、人とちょっと違うものを描きたいなあ、って思ってます。今回の私学美術展では何を描こうかと悩んで、図書館で素材を探したのですが、『廃墟』の写真集がとてもきれいで、本屋で買いました！時代の名残とかを感じる



今年の大阪私学美術展での展示の様子。▲▲▲▲さんの油絵「廃・工場」他、多数の作品が賞を受賞しました。

ので面白いし、錆びてる感じを油絵で描いたら、素敵かなあって。」

Q 今年の私学美術展への作品はどう？
A ●●●●「昔は一色で塗ってしまっていたものを、今ではたくさん色を混ぜて使えるようになりました。その方が深みも出ることを実感したし、去年よりはいい作品に仕上がったと思います。」

▲▲▲▲「ずっと水彩画が好きだったんですが、今回は油絵に力を入れました。2年では使いこなせなかった道具も、今では大分使えるようになりました。」

それぞれのペースで楽しんで絵を描きながら、でも確実に自分の成長を感じているようです。これからも素晴らしい作品を描き続けてくれることを期待しています。

NEWS

同窓会イベント

樟蔭同窓会総会 開催

樟蔭同窓会の総会が、今年は5月17日(日)にシェラトン都ホテル大阪で開催され、現役教職員や元学長・校長、旧教職員などの来賓の方33名と卒業生276名が参加されました。総会では、網野康子会長のあいさつに続き、事業報告や会計報告、事業計画などが承認されました。その後のパーティーでは、卒業生で声楽家の興津由紀さんが独唱され、その美しい歌声に釘づけになるなど、和やかな雰囲気の中が歓談が続きました。また、毎年恒例の抽選会もとても盛り上がり、時間が過ぎるのを忘れる程の楽しいパーティーでした。



樟蔭同窓会東京支部総会 開催

同窓会東京支部の総会が、6月9日(火)にシェラトン都ホテル東京で開催されました。新装されたホテルの素晴らしい庭園とジャズのミニコンサートを楽しみながら、100人以上の卒業生が集まり楽しく賑やかな歓談が続きました。また、プリザーブドフラワーなどの卒業生による手作りの品や豪華な景品などが当たる福引もあり、とてもアットホームな雰囲気でした。



樟蔭のつどい

中国・四国地域の卒業生のイベント『樟蔭のつどい in 岡山』が開催されました！

中国・四国地域における卒業生の交流が深まることを目的として、5年前から始まった「樟蔭のつどい」。今年も、7月5日(日)に岡山市内で開催されました。今回は、初めて卒業生の有志の方々により結成された「同窓会岡山支部設立準備委員会」との共催で行われた他、講演から懇親会までの全てを卒業生のためだけのイベントとして開催いたしました。午前中に行われた講演会では、本学の伊豆原月絵教授(被服学科)より、今年のファッションの動向を取り入れながら、自分に合う色を見つけてオシャレ

を楽しむ方法を教えていただきました。女性にとってオシャレはいつまでも楽しみたいものだけに、皆さんが真剣な眼差しで聞いておられるのがとても印象的でした。午後からは、理事長はじめ学園教職員と卒業生の皆さんとの懇親会が、2部形式で行われました。第1部では教員による近況報告や学園のニュースについてお聞きいただき、後半の第2部では、支部設立準備委員の進行により、卒業生によるフラダンスの実演と体験教室、卒業生のピアノ伴奏による合唱など、皆さんが一緒に参加していただけるプログ

ラムで行われ、今までと違ったとても和やかな雰囲気を楽しんでいただけました。これからも、学園ならびに支部設立準備委員会では、地域の卒業生の交流を活性化させる様々なイベントを企画していきたいと考えておりますので、近隣にお住いの卒業生の皆さんは、ぜひともご参加ください。



はぐくむ心



樟蔭高等学校副校長 渥美良一 (あつみ りょういち)

【プロフィール】
●●●●年●月●日生まれ。愛知県出身。
1976年、京都大学文学部哲学科卒業後、樟蔭高等学校の社会科教師になる。
「初めは照れくさくて窓の外を見て授業をした」そうだが、その後は担任のみならず、ワンダーフォーゲル部、新聞部の顧問として、生徒たちの成長を見守ってきた。

中学校で出会ったひとりの先生が私の心を育て、教職に導いてくれた

学校は学びの場であるとともに、人と人が出会う場でもあります。生涯の友となる同級生との出会いもあれば、人生に大きな影響を与えてくれる教師との出会いもあります。私が中学校で出会ったのは、S先生。いま思えば、S先生の教えを受けたことが教職を一生の仕事として選んだ最大の理由だと思います。

バスケット部の顧問だった先生は、ヒントは与えてくれるものの一方的な指導はせず、あらゆることを部員のミーティングで決めさせました。生徒の自主性を育てていたのです。私たち部員は、自分たちで考え、行動することの大切さに目覚め、強いチームワークのもと地域大会で初優勝しました。

国語の時間には、S先生手作りのプリントを使ってたくさん詩を暗唱しました。40年後の今でも、その頃に覚えた詩のいくつかは暗唱できます。また先生はチェーホフなどの小説の面白さと深さを熱心に語り、中学生の読書の扉を開いてくれました。大学で、哲学書を読み耽り、ロシア演劇に熱中したもの、根っ子には先生の教えがありました。

先生は生徒をいい意味で対等に扱いながら、真っ直ぐ真剣に生徒に向き合ってくれ、私たち生徒はその思いを純粹に受け止め、自らを成長させていきました。

その後自分が教職に就き、いちばん大切にすることも、生徒と真剣に向き合うことです。現在は副校長になり、授業で生徒に接する機会は減りましたが、生徒指導の場では、常に初心を忘れず生徒に真剣に向き合っています。生徒指導で大切なのは、保護者の方と学校との信頼関係です。お互いに連絡を取り合い、情報交換をしながら、一緒になって生徒を守り育てたいと願っています。



YA報告

「ヤングアメリカンズ」が今年もやってきた！

英語も音楽もダンスも未経験の日本の子どもたちが、アメリカの若者(45名)との交流を通して3日間で歌とダンスのショーを完成させるプログラム「ヤングアメリカンズ in SHOIN」が、好評により今年も関屋キャンパスで6月12日(金)から14日(日)の3日間開催されました。関西地域での開催は本学のみということもあり、近隣地域だけでなく、大阪府内から参加する子どもも多く、小学生から高校生までの141名の子どもたちと48名の本学学生が参加しました。プログラム中、英語で指導を行うヤングアメリカンズに対し、子どもたちは言葉が通じなくても身ぶり手ぶりでコミュニケーションをとり、最終日のショーに向けて歌やダンスの練習に励んでいました。最初は緊張で顔が強張って

いた子どもたちの表情もプログラムが進むにつれて豊かになっていき、最終日のショーが終わった時には「皆と一緒に一つのことをやり遂げた」という自信たっぷりの表情に変わっていたのがとても印象的でした。今回のヤングアメリカンズも、学生たちが中心となって組織された「YA実行委員会」と大学が共同して準備・運営を行い、またホームステイの受け入れや当日の運営などには多くのボランティアスタッフの方々にご協力いただき、参加者全員が楽しい3日間を共有することができました。



ショーが終わった翌日の6月15日(月)、小阪・関屋の両キャンパスでは、学生とヤングアメリカンズとの交流会が行われました。学生によるお茶会に招待したり、ヤングアメリカンズのメンバーと歌やダンスを練習したり楽しくコミュニケーションをとることができました。学生にとって生きた英語に触れ、外国人とのコミュニケーションに慣れる良い機会になったことと思います。

活動報告

児童学科1回生 ●●●●さん 日本代表として、バトントワリングの世界大会に出場！

8月6日(木)からオーストラリア・シドニーで開催されたバトントワリングの世界大会『第5回WBTFインターナショナルカップ』に児童学科1回生の●●●●さんが、日本代表として出場されました。競技種目は、樟蔭高校の3年生だった頃から取り組んだ「スリーバトン」で、3本のバトンを途切れずに操るという高度なテクニックが要求されます。

今回初めての世界大会出場となる●●●●さんは、最初は外国人が多い環境に戸惑いを感じたそうです。でも、「演技中は、その環境に振り回されず平常心で演技することを心がけたら、プレッシャーに負けることなく思った通りの最高の演技ができました」と語る●●●●さんの表情は、自信に満ち溢れとても素敵でした。

世界大会への出場という一つの大きな目標を成し遂げた喜びを感じた●●●●さんは、「次は“世界大会の表彰台に立つこと”と児童学科で学ぶ知識を活用して“ジュニアの指導者になること”の二つの夢に向かって、がんばります」と語っていました。これからも、バトンと勉学を両立しながらの活躍を期待しています！

